

# 答申案の概要

## 現状と問題点

### ★市の事業系ごみ量について

#### 【現状】

- ・令和5年度は、焼却工場で処理する一般廃棄物の半分以上が事業系ごみであった
- ・事業系ごみの1人一日あたりのごみ量が政令市で2番目に多い

【問題点】 市民1人一日あたりの事業系ごみ量が他の政令市に比べて多い

### ★事業者の意識について

#### 【現状】

- ・事業者アンケートでは、8割がリサイクルできていると回答
- ・組成調査の結果、搬入されたごみの約4割が紙類

【問題点】 事業者の意識と排出実態が乖離

### ★焼却工場の検査・指導体制について

#### 【現状】

- ・リサイクル可能なものや本来受け入れできないごみが焼却工場に搬入されている
- ・市外ごみや無許可の者による搬入が判明している

【問題点】 検査・指導体制が十分とは言えない

### ★現行の処理手数料について

#### 【現状】

- ・手数料が約20年間改定されていない(100円/10kg)
- ・工場整備や物価高騰により、ごみ処理原価は今後とも上がる見込み
- ・周辺市町の手数料や民間リサイクル施設の料金よりも安価

## 対策の方向性

事業者の意識変革とさらなるリサイクル促進

焼却工場における検査・指導体制の強化

ごみ処理手数料の見直し

## 今後の対策

### 排出事業者責任の啓発の徹底

- ・従業員へも排出事業者責任を説明
- ・減量等の取り組みが処理コスト抑制につながることを啓発
- ・SNS等も活用し、幅広く周知 など

### 紙類のリサイクル促進と新たな仕組みづくり

- ・既存の紙類リサイクルの仕組みを普及
- ・紙類分別ボックスの提供
- ・厨芥類のリサイクルの仕組みづくり など

### 検査の強化と違反への厳格対処

- ・検査回数、人員の見直し
- ・搬入申請書や検査マニュアルの工夫
- ・不正行為への罰則適用も視野
- ・不法投棄対策、事前申請の検討 など

### 総合的な視点による手数料の見直し検討

- ・手数料の見直しは、排出事業者責任、ごみ処理原価、周辺市町との均衡、リサイクルへの誘導など総合的な考慮が必要
- ・改定に伴う事業者負担に配慮すること
- ・丁寧な説明により事業者の理解を得なければならない